

事後評価結果（平成18年度）

担当課：中国地方整備局道路計画課

担当課長名：吉岡 大藏

事業名	一般国道53号 津山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	白：岡山県津山市皿 至：岡山県津山市二宮	延長	1.6 km		

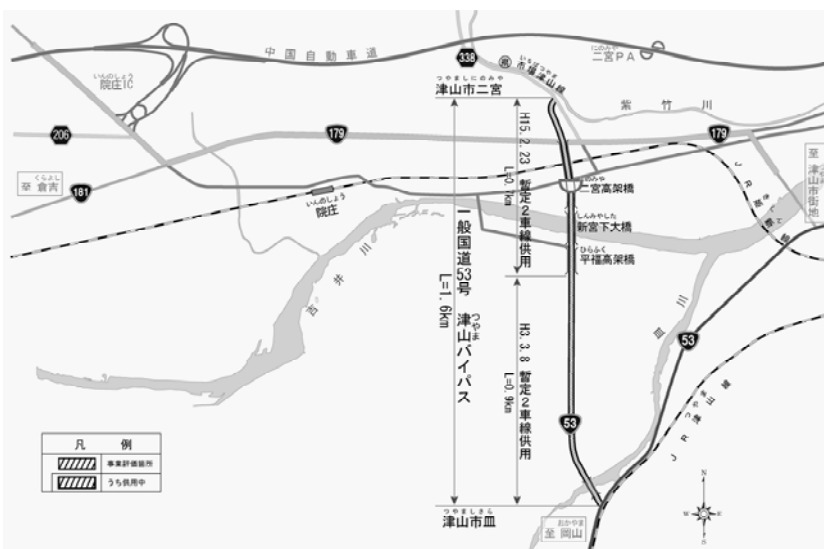
事業概要

一般国道53号は、岡山市を起点とし、津山市を経て中国山地を越え、鳥取市に至る延長約139 kmの主要幹線道路である。津山バイパスは、津山市皿から津山市二宮に至る延長1.6 kmの道路である。

事業の目的・必要性

津山バイパスは、津山市内に滞留している交通を適切に分散誘導処理することで、交通渋滞の解消、交通安全の確保を図り、さらに良好な都市環境の形成を目的として計画された道路である。

事業概要図



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度：S57年度 都市計画決定：S56年度	用地着手：S59年度 工事着手：S63年度	供用年：(当初) — / — (暫定/完成) (実績) H14年度 / —	変動	— 倍
	事業費	計画時 (名目値) — / — 億円 暫定/完成 (実質値) — / — 億円	実績 (名目値) — / — 億円 暫定/完成 (実質値) 133 / — 億円		変動	— 倍
交通量 (当該路線)	計画時 暫定/完成	— / — 台/日	実績 暫定/完成	11,300 / — 台/日	変動	— %
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	24.7 → 30.8 km/h (供用前年次) S52年度 (供用後年次) H15年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	— → — 件/億台キロ (供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度			
費用対効果 分析結果 (当初)	B/C : —	総費用 : — 億円 (事業費 : 億円 維持管理費 : 億円)	総便益 : — 億円 (走行時間短縮便益 : 億円 走行経費減少便益 : 億円 交通事故減少便益 : 億円)	基準年 : — 年		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C : 1.2	総費用 : 212 億円 (事業費 : 198 億円 維持管理費 : 14 億円)	総便益 : 257 億円 (走行時間短縮便益 : 227 億円 走行経費減少便益 : 20 億円 交通事故減少便益 : 10 億円)	基準年 : H18年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額 : — 億円	便益減少額 : — 億円				
事業遅延の理由	特になし					

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●円滑なモビリティの確保・・・渋滞損失時間の削減、JR姫新線の踏切利用の解消、バス路線の利便性向上が図られる。 ●国土・地域ネットワークの構築・・・日常活動圏中心都市へのアクセスの向上が図られる。大型車のすれ違いが困難な宮下橋から交通転換が図られる。 ●個性ある地域の形成・・・津山バイパス供用により迂回路が設定できたため、「津山納涼ごんごまつり」開催時に国道53号の交通規制が可能となり、観客の安全性、快適性向上に貢献するなど、地域の大規模イベントを支援している。 ●安全で安心できる暮らしの確保・・・3次医療施設（津山中央病院）へのアクセス向上が図られる。 ●災害への備え・・・第一次緊急輸送道路に位置付け（岡山県地域防災計画）。 ●地球環境の保全/生活環境の改善・保全・・・環境（大気質）の改善が図られる。 <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>津山バイパス供用により、周辺環境における大気質の改善や騒音の改善が図られる。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・S50.10 中国自動車道の吹田～落合間が開通 ・S58.3 中国自動車道が全線開通（吹田～下関間542.6km） ・H15.8 市内循環バス（院庄循環線）新規整備 ・H17.2 市町村合併（津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町）
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>事業に伴う整備効果の発現がみられることから、今後の再事後評価および改善措置の必要性はないと考えられる。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>特になし</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものを。